

## 防 災 ・ 災 害 対 策 特 別 委 員 会 記 録

1 日 時 令和8年1月26日(月)  
午前10時00分 開会  
午前11時34分 閉会

2 場 所 現地及び第2委員会室

### 3 出席委員

委員長	仙 波 憲 一	副委員長	黒 田 真 徳
委員	伊 藤 義 男	委員	加 藤 昌 延
委員	井 谷 幸 恵	委員	大 條 雅 久
委員	伊 藤 優 子		

### 4 欠席委員

なし

### 5 説明のため出席した者

#### ・市民環境部

総括次長(地域コミュニティ課長)	塩 崎 秀 一	次長(危機管理監)	小 澤 昇
危機管理課長	藤 田 裕 一	危機管理課主幹	宇 野 久 美 子
危機管理課副課長	伊 東 拓 麻		

### 6 議会事務局職員出席者

議事課主任 田 辺 和 之

### 7 本日の会議に付した事件

- (1) 防災対策に関する調査
- (2) 大規模災害時における問題調査
- (3) 地域防災(消防団の在り方を含む)に関する調査  
防災備蓄倉庫について
- (4) 付議事件調査における委員間討議について

### 8 会議の概要

○ 開 会 午前10時00分

現地調査

神郷公民館及び神郷小学校を訪問し、現地において職員等より説明

第2委員会室へ移動

(4) 付議事件調査における委員間討議について

- 委員長：次に、11月11日から14日の間実施した特別委員会の付議事件調査の視察内容等について、感想など自由に話をいただきたい。

〈静岡市：災害時総合情報システムについて〉

- 委員：静岡市の災害時総合情報システムについては、感心したが、費用がかかるなど思った。
- 委員：静岡市防災ナビのようなシステムはお金さえあればだが、導入できればいいと思う。あったら非常にいいと思う。
- 委員：冠水を把握するシステムならいけるのではないか。浸水センサーは機械1つにつき数万円程度だったので。
- 委員：川にはカメラもあるので、新居浜でも確認はできている。
- 委員：警報によって学校から子供を帰宅させるときに、通学路の冠水状況を把握できるようにすれば安全だと思う。水路が溢れて、水路と道路の境界が分からないということがあるので。
- 委員：静岡市の災害時総合情報システムは、迅速、正確な情報収集や情報発信を可能とする、災害時に大変有効なシステムとなっていた。どこの市も情報の一元化については考えていると思うが、そのネックとして費用面が大きく、また、それを市民全員が利用できるのかということに検討の余地があると思った。

- 委員：内部災害情報システムを開発し、使い勝手もよく、いろいろな範囲で使っていて感心した。現在新居浜市が運用している公式ラインでの損傷個所の報告機能などを、災害時の災害状況の写真や動画の共有に活用できればと思う。範囲を広げる費用がどの程度かかるのかは分からないが、今でも不法投棄の写真を送れば対応いただいた経験もあるため、災害時に今のラインの活用の幅を広げるといった方法もあると思った。

〈国分寺市：防災まちづくりについて〉

- 委員：国分寺市では、早い段階の昭和49年に防災都市づくりを開始し、昭和50年には都市空間と危険性の調査・研究、昭和53年には災害危険区域図、震災危険度表を作成し、市内全戸配布するなど、早い段階から防災意識の高いまちづくりに取り組んでいた。その中で参考になると思ったのが、自宅避難のすすめということで、自宅避難が避難所の一つとして考えられるということで、新居浜市でも選択肢の一つとして自宅避難の意識を醸成していければと考える。
- 委員：国分寺市でのたすけあいカードのような助け合えるシステムはいいと思った。本市と同様に自治会、町内会が主体ということで、会員の減少にどのように歯止めをかけるのかということが今後の課題だと思った。
- 委員：市民防災推進委員会を設立し、その活動が活発で、いろいろな講座を実施しており、新居浜市も自治会頼みではなく、講習を開いて皆さんに聞いてもらうことを見習うべきだと思った。
- 委員：市民防災まちづくり学校で1年にわたって全13回という長期的に勉強ができるのはすごいと思った。

〈常総市：防災先進都市を目指す取組について〉

- 委員：女性目線での困ったこと、解決策をまとめた冊子を作っており、すごくいいと思った。新居浜市でも同じような女性目線でのものがあればいいと思った。
- 委員：常総市は大きな災害の経験からの反省に基づいて、一からやり直すという背景があったと思う。新居浜市は平成16年以降大きな災害がなく、意識が薄れていると思うため、勉強会ができればと思う。
- 委員：要支援者を逆手上げ方式を利用して防災目的で共有することは本市でも取り入れていかないと、今のように民生委員が一件ずつ回って確認取るのには限界を感じるため、その辺を導入していくべきだと思う。  
また、常総市は外国人の割合が1割と高く、災害時にどうするかが課題に上がっているということで、新居浜市にも近い将来同様の状況になる可能性もあるため、早めに対策を取る必要があると思った。
- 委員：常総市では大きな災害が過去にあったが、対策として広域避難の協定締結や、住民によるマイ・タイムライン作成の推進、小中学校一斉防災学習・訓練を行うなど、様々な取組が行われていた。特に、マイ・タイムラインに関しては、みんなでタイムラインプロジェクトという先駆的な取組をモデル地区で行うなど、住民参加の検討を平成28年度から始めていた。また、逃げキッドというマイ・タイムライン検討ツールを作成しており、私も議会の一般質問でも取り上げたが、マイ・タイムラインの周知は進んでいると思うが、実際に作成して今後の災害に生かすというところまでには至っていないと思う。やはり平時に時系列でどういう避難行動を取るのかをしっかりと考え、目に見える形で作成するのは非常に参考となった。
- 委員：防災教育について、学校、校区任せではなく、市の担当部門が小中学校に向けて防災教育、防災スポーツを推進し、子供たちに日頃から防災の意識づけと対応力を植え付けているのは感心した。

○ 閉 会 午前11時34分